



「スーパーの売り場内で自分の子供が走り回っている…」

- ◎ スーパーの売り場内で子供たちが騒ぎながら走り回っている光景を目にすることがあります。他の人にぶつかったり、陳列されている品物を崩してしまったりして、店員や警備の人、お客さんたちは迷惑顔。
- ◎ 自分の子供がこのように走り回っている時、親御さんはどのような対応になるでしょうか。

- 「店員さんに怒られるからやめなさい」
- 「警備のおじさんが怖い顔しているからやめなさい」
- 「なんていう親だ、と私が思われて恥ずかしいからやめなさい」

このような言い方で、注意したり叱ったりすることがあるかもしれません。

- ◎ でも、これでは子供の成長にとって、あまりよい言い方とは言えません。「自分が不快な思いをしたくない」から「やめなさい」となっているのです。心身共に大きく成長するこの時期に、「他人を思いやる気持ち」や「社会のルールの理解」につながる言葉かけが必要でしょう。

- 「周りの人が嫌な思いをするから…」
- 「周りの人が不快な思いをするから…」
- 「周りの人に迷惑をかけているから…」

このように、周りの人を思いやるような理由を説明しながら言葉かけをして他人への思いやり、「自分がされて嫌なことは他人にはしない」こと、対人関係作りを少しずつ育てていきたいものです。「叱られるからやらない」「怖い顔をしているからやらない」「恥ずかしい思いをするからやらない」ではなく、周りの人の気持ちを思いやって、「やらない」となってほしいですね。

※「こころのお便り」は、情緒通級の現役教諭が原稿を書き、深大出版で編集しています。
子育てに悩む保護者の方、児童を理解したい先生等どなたでもプリントしてお使いいただけます。